

三色ピーマンの株間・主枝数が収量に及ぼす影響



写真1 赤系品種‘くれない’



写真2 黄系品種‘やまぶき’



写真3 橙系品種‘にしきおり’

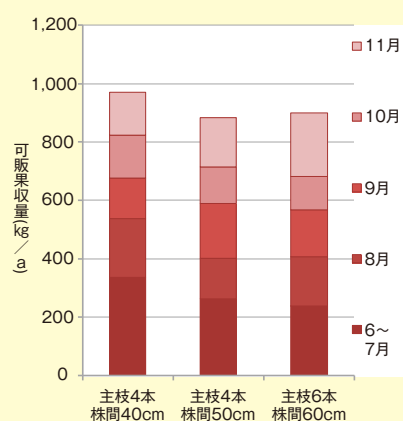


図1 赤系品種‘くれない’の主枝数および株間の違いと可販果収量

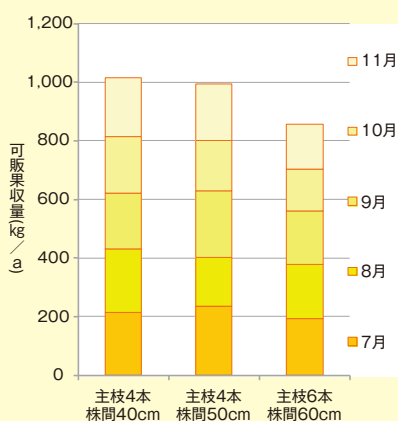


図2 黄系品種‘やまぶき’の主枝数および株間の違いと可販果収量

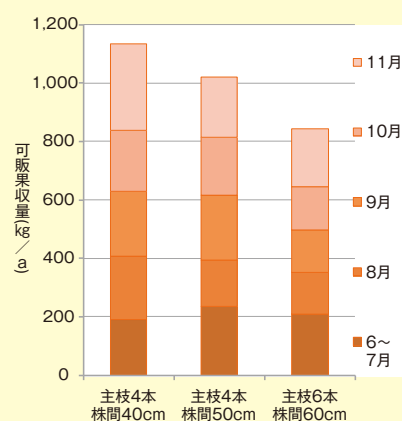


図3 橙系品種‘にしきおり’の主枝数および株間の違いと可販果収量

三色ピーマンは、赤、黄、橙色の3色の果実を1袋に入れて販売する中型パプリカで、嶺北地域で雨よけ夏秋栽培がおこなわれています（写真1～3）。新しく導入された品目で、生産現場では主枝数や株間が統一されておらず、安定的に生産できる栽培様式が求められていました。

そこで、三色ピーマンの品種ごとに、主枝数と株間を違って栽培し、収量性を調査しましたので紹介します。

いずれの品種も主枝4本・株間40cmで最も可販果収量が多く、赤系品種‘くれない’は971kg/a、黄系品種‘やまぶき’

は1,016kg/a、橙系品種‘にしきおり’は1,133kg/aとなりました。主枝4本・株間40cmに比べて主枝6本・株間60cmでは、7～26%少なく、主枝4本・株間50cmも‘やまぶき’を除いて9～10%少なくなりました（図1～3）。

以上より、三色ピーマンの主枝数と株間は、4本と40cmの組み合わせが最も収量が高いと考えられます。ただし、‘やまぶき’については主枝4本・株間50cmでも同等の収量が得られます。

（山間試験室 児玉幸信 0887-72-0058）